

臨床検査技師実習施設指導者等養成講習会 受講者の声

臨床検査技師実習施設指導者等養成講習会<関連記事 1 ページ>受講生にアンケートをお願いし、74 名から回答をいただいた。

◆ “今回の講習会は有益であったか？” に対しては、<非常に有益であった>が 38、<まあまあ有益であった>が 36 であった。

◆ “年間何人の実習生を引き受けているか？” に対しては、<0-1 名>が 15、<2-5 名>が 22、<6-10 名>が 23、<11-20 名>が 9、<31 名以上>が 5 で、<21-30 名>は 0 であった。

◆ “特に有益と思われた講義を何であったか？” に対しては、

- ・臨床検査技師法改正の意義・・・15
- ・診療報酬改定への対応・・・3
- ・病院経営管理から見た検査室・・・24
- ・情報化時代におけるパラダイム・シフト・・・12
- ・遺伝子検査の最前線<LAMP 法を中心に>・・・7
- ・品質管理<ISO 認定に向けて>・・・22
- ・精度管理とデータ標準化理論と実技・・・24
- ・臨床検査における個人情報保護法・・・1
- ・労働安全衛生管理・・・9
- ・医療事故と技師の責任・・・34
- ・チーム医療の実践と課題・・・38
- ・今後の検査技師教育<認定制度を含む>・・・26
- ・国民の目線に立った望まれる検査技師像・・・8
- ・グループ討議・・・4

であり、<非常に有益であった>と回答したグループと<まあまあ有益であった>と回答したフループに大差はないものの、<まあまあ有益であった>と回答した方が、労働安全衛生管理、医療事故と技師の責任、チーム医療の実践と課題などのより実践的な内容を望む傾向が見られた。ただ、診療報酬改定への対応、臨床検査における個人情報保護法、労働安全衛生管理などの管理面の少ないのは、技術者としての特性を示しているかのようで、今後の課題として示された結果となった。

◆ 今後取り上げてほしい内容？ に対しては、<非常に有益であった>グループでは、患者やスタッフのコミュニケーションや接遇、人材育成、教育システム、安全管理が比較的多く、医療経営、病院経営、組織運営、収支管理などの管理面を望む声もあった。

<まあまあ有益であった>グループでは、運営管理、安全管理、教育方法、法律、精神衛生などの管理面を望む声が多い傾向であった。

◆ 今回のアンケートには取り上げていないが、受講者から、従来開催していた管理監督者研修会の開催についての要望も寄せられた。団塊の世代の退職により検査室の管理運営面の世代交代が急激に進んでいる。この管理監督者研修会を再開してほしい。今こそ職能団体としての日臨技を示してほしいという意見であった。

<学生-新卒者-中堅クラス-管理者>の一貫した研修システムを早急に構築する必要性、更に、総会において会員へ示した<人財育成>であり、生涯教育研修制度運営管理専門課程を<認定総合監理検査技師制度>へ移行させた日臨技の責任でもあることを示唆する貴重な意見であった。

◆ これらの意見を集約して、来年以降の指導者研修会に臨むこととなるが、すでに東西 2 回の開催は決定しており、今後は会場とテーマの検討となる。

第 2 回 国際医療セクター評議会 開催

去る 6 月 13~15 日に静岡県淡島ホテルにて「国際医療セクター評議会」が開催された。

この会議は、10 周年を迎える米国の「Health Sector Assembly」をモデルとするものであるが、評議会そのものは純然たる日本固有のものである。この会議には残念ながら日臨技は参加していないが、日本医師会をはじめ、大学、研究所、メーカーなどのトップクラスが終結した会議であり、医療総合研究や医療システム、医療経済、福祉をも含む構成である。

「最近、<医療崩壊>という言葉が多く見られるようになっていて。…緊急に解決されなければならない問題として、医療費、医師の不足や偏在、病院勤務医の不足、特定の診療科医師の不足、医療現場の疲弊・制度上生じる無理・無駄、患者の受療行動、地域医療システム等の諸問題を議論した。そして問題の解決を図りながら、持続可能な医療システムを構築していくことが重要であることを確認した。…医療においては医療関係者と受療側の信頼関係が成り立っていることが最も重要であるが、近年信頼関係が懸念される状況が見られるようになってきている。倫理観、信頼の醸成、正しい消費者主権の確立が必要であり、<医療基本法>の制定を求めるべきであるとの意見も出された。また、医療政策決定プロセスの透明化、医師に関しては、専門的な職能集団として、社会的・公的な責任を明示した、指導監督を行う強制加入の組織が必要であるとの意見も見られた。…」と報告書は結んでいる。

その内容は、

- ◆ 緊急に解決すべき問題・・・
 - ・医師の確保と医療従事者の過重労働問題・・・
 - ・制度上の無理・無駄の排除と患者の受療行動・・・
 - ◆ 持続可能な医療システムを構築するために・・・
 - ・医療費のあり方・・・
 - ◆ 望まれる医療、あるべき医療費の水準についての合意・・・
 - ・医療を提供する国や医療機関と国民との会話・・・
 - ◆ 医療サービスの質や内容が医療費に見合ったものか、その水準を国民が納得できるか・・・
 - ◆ 医療費の財源について・・・
- などとしているが、その他として、
- ◆ 「望ましい医療」の実現には制度や財源等の検討に加え、医療や健康についての教育システム(初等教育、成人教育、生涯教育)の構築が重要である。健康観や死生観について、幼少児期から高齢期にいたる、それぞれの段階に相応しい教育や議論が行われることが、レベルの高い、望ましい医療の実現には必要である。

としており、日臨技としても十分その議論に入ることが可能であるし、このような議論に積極的に加わるからこそ、医療界に席をおく者の姿であろう。